

小学校・中学校社会科の学習におけるノート指導の実践  
～予習的課題の工夫と板書の構造化を通して～

郡山市立行健中学校 教諭 鈴木 文昌

## 1 研究の趣旨

小学校学習指導要領の改訂の趣旨の一つは、児童が自ら学び自ら考える力の育成を図ることである。特に社会科においては、「考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ること」を求めている。

また、中学校社会科の歴史的分野においては、「歴史的事象について考察・判断し、その成果を自分の言葉で表現する学習を行う」ことを改善点として挙げている。

そこで、小学校・中学校社会科の学習において、考えたことを自分の言葉で表現する場の一つである「ノート指導」に焦点を当てて研究を進めることとした。また本研究においては、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

小学校・中学校社会科の授業において、予習的課題を工夫するとともに、板書の構造化を図りながら、以下の視点に基づく手立てを講じたノート指導を実践することで、児童・生徒は確かな学力を身につけることができるであろう。

【視点1】予習的課題を活用し、事前に基礎的・基本的な学習内容をおさえる。

【視点2】予習的課題の内容をふまえた上で、板書の構造化を図った授業を実践する。

## 2 研究の概要

### (1) 予習的課題の工夫

○ 児童・生徒が基礎的・基本的事項などの予備知識をもって積極的に授業に臨むための予習的課題の設定の仕方を工夫する。

### (2) 指導と評価の一体化

○ 効果的な指導のための評価を意識するとともに、学級や児童・生徒の実態に合った自己評価との一体的な評価のあり方を工夫する。

### (3) 板書の構造化

○ 児童・生徒の考えを効果的に取り入れながら、板書の構造化を図るとともに、予習的課題を生かしたノート指導の実践を積み重ねる。

### (4) 関心・意欲の高まりを検証するアンケートの実施

○ 小単元ごとに4段階で自己評価を行い、社会科の学習に対する児童・生徒の意欲の高まりを検証する。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ① 予習的課題の工夫

○ 予習的課題を工夫して活用することで、基礎的・基本的な学習内容を理解させることができた。

#### ② 指導と評価の一体化

○ 予習的課題の中に設定した自己評価などを基にしながら、ノートを活用して指導と評価の一体化を図ることができた。

#### ③ 板書の構造化

○ 小学校・中学校社会科の学習において、共通して実践できることの一つが「板書の構造化」である。構造化された板書は教師のためではなく、授業の主役である児童・生徒たちが学習内容を正しく理解するために必要なものである。この1年間の実践を通して、芳賀小学校の児童や本校の生徒が、日を追うごとに「社会科の授業はわかりやすいし、楽しい」ことを実感してくれるようになった。

#### ④ 関心・意欲の高まりを検証するアンケートの実施

○ 芳賀小学校の児童も本校の生徒も、社会科の学習に対する意欲の高まりが学力の向上にもつながっていることがアンケート結果からわかった。

### (2) 今後の課題

① 本研究を通して、指導と評価の一体化の中で学習課題の明確化や学習活動としての自己評価が授業改善につながった。一方で教育課程の改善につながる評価の部分が不十分であったと感じている。

② 中学校においても今年度から新学習指導要領が完全実施となり、生徒の実態に並び、確かな学力を保障するための教育課程の修正や開発をより一層推進していく必要がある。